

No.1778 長期継続特殊前兆続報 CH20・CH21静穏化 CH20=静穏持続 9/25~26ピーク認識 (CH2, CH21, CH34)

9/24配信の地震前兆観測情報No.2824で報告致しましたとおり、9/24の昼に長期間特異状態が継続出現していたCH20が前兆静穏化し、正常基線を記録いたしました。また、同じく長期間特異状態が継続出現していたCH21も同24日の16時頃より正常基線を記録いたしました。右のとおり、CH20は24日の16時頃より再び特異状態となりましたが、同日24日の20時からは再び正常基線に戻り、9/26夕刻現在まで静穏基線が継続しており特異状態の再出現は認められません。

CH21は9/24.7より正常基線となりましたが、9/25の04時頃より特異変動が徐々に大きくなりだし、右下波形のとおりの変動が観測されています。CH21の特異変動は本日夕刻徐々に静穏基線に復帰しつつあります。

CH2は9/21 午後に短時間系状特異状態を観測しましたが、9/24の13時頃より9/21よりも長時間（現在も系状特異継続中）再び系状特異が出現しています。

CH34は9/25 10時頃より大きな変動の特異状態が出現し、本日9/26 11時頃終息致しました。

これらを鑑みるに、次の可能性が考えられます。

- ①9/2.5 極大に対する前兆終息が9/24.7に認識できる(Tmap:Tpp=3.9:1 経験則)より →10/2発生の可能性有
- ②変動の一番大きな9/25.5に極大 または、CH34特異変動中心9/26.0に極大の可能性
 - a) 初現9/21.7仮定→9/25.5極大→10/2発生
 - b) 初現9/21.7仮定→9/26.0極大→10/4発生

9/24.7±にCH20は完全静穏化、CH21も同時刻に静穏化し、12時間静穏基線が継続したことから、上記①のとおり静穏化認識。

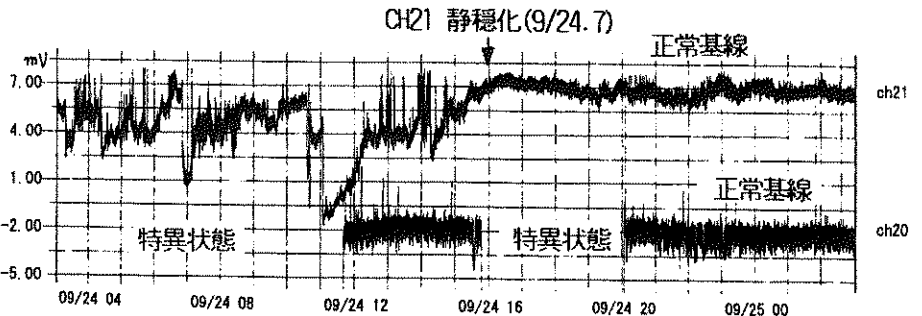
一度静穏化したCH21が再び特異状態が出現したのは、9/25.5or9/26.0に極大が出現したためであるとう見解です。

この見解が正しい場合には、CH2, 21, 34各観測装置の前兆変動も

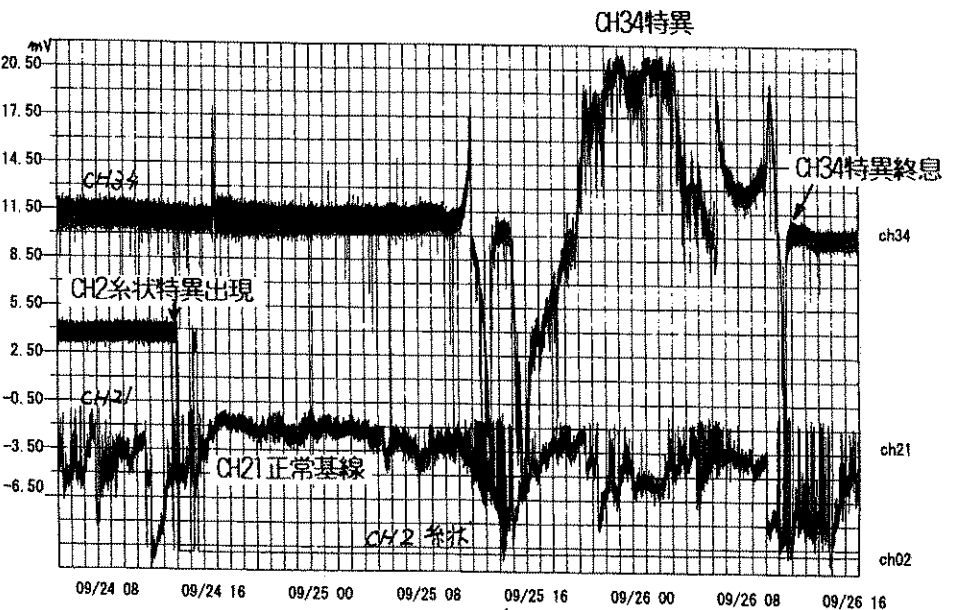
10/2 発生仮定の場合=9/30~10/1 終息

10/4 発生仮定の場合=10/2 終息の可能性が計算されます。これらの前兆終息が観測された場合は、発生日を計算できますが、現状は一応10/3±と致します。

※9月中の発生否定情報やCH20, 21等の前兆静穏化につきましては、E-mail及FAXで配信しております。地震前兆検知・観測情報では順次配信報告致しましたが、HPでは、その後を観測してからご報告する予定で本日の報告となりました。お許し下さい。



極大 9/2.5 ————— 静穏化 9/24.7 —————>10/2±



9/21.7(CH2 特異初現) ————— 9/25.5極大 —————>10/2±
9/21.7(CH2 特異初現) ————— 9/26.0極大 —————>10/4±

- ◆推定領域：右図太線領域内付近 (点線内領域=大枠推定域)
※やや火山帯に近い領域の可能性有 (可能性低い影響局誤認の場合=東北)
- ◆推定規模：M7.8±0.5
※群発的地震活動の可能性も有
- ◆推定時期：10月3日±
※但し、今後の観測で修正の可能性も有

- ◇推定地震種：震源浅い陸域地殻
- ◇推定発生時刻：AM9:00±1 (or PM6:00±3) (※前震があった場合には推定時刻は無効)
- C) Copyright 2016 YSBO八ヶ岳南麓天文台

